

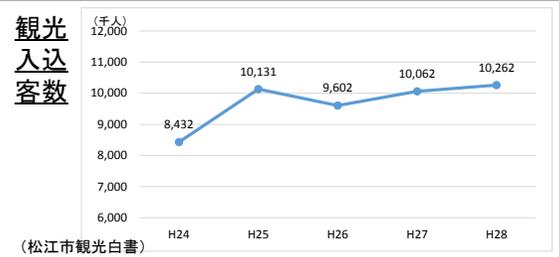
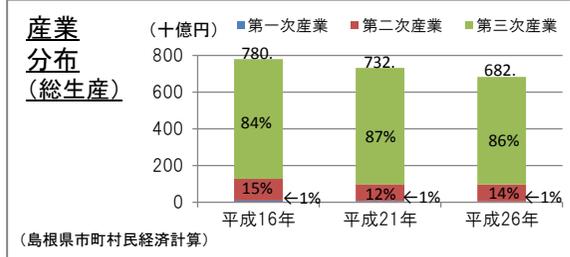
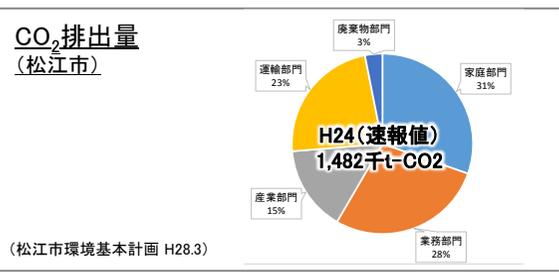
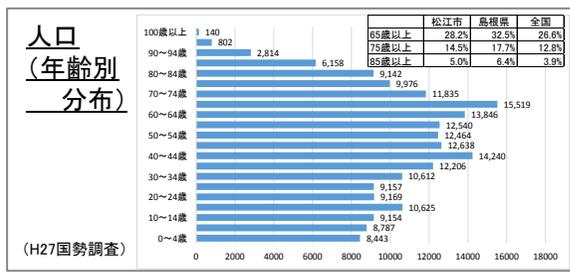
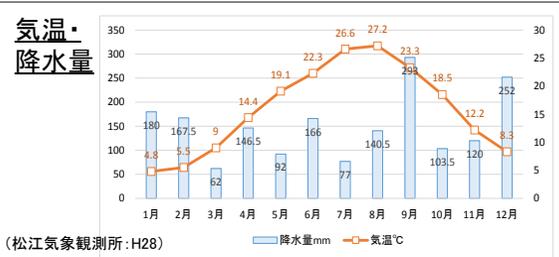
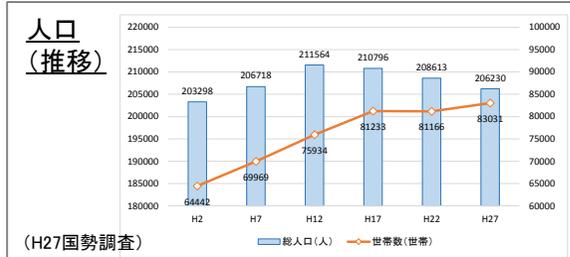
## エコ×ユニバーサルな国際文化観光都市・松江の 次世代型まちづくり構想

～ 誰もが楽しめる拠点づくりと低炭素型モビリティのネットワーク化を目指して ～

対象地域	島根県 松江市
代表提案者	エコ×ユニバーサルな松江のまちづくりを考える会 (地域30まつえ・NPO法人プロジェクトゆうあい・社会福祉法人みずうみ)
協同提案者	松江市
対象分野 (まち・住まい・交通)	まち・交通

# 【1】地域の概観

## ■構想のフィールドとなる自治体の概要



## ■リーディングプロジェクトの舞台となる地区の概要

- 本市は平成30年4月1日より中核市に移行。
- 松江城をはじめ、歴史ある史跡・神社、温泉、自然など観光資源が豊富。
- 松江市公共交通利用促進市民会議は、「松江市一斉ノーマイカーウィーク」など地道な取り組みが評価されH29年にEST交通環境大賞優秀賞を受賞。
- バリアフリーな観光を支援する山陰バリアフリーツアーセンターがH16年に設立(NPO法人プロジェクトゆうあいが運営)
- IT産業振興に向け、H18年からRubyCity松江プロジェクトがスタート。



**島根地区**

- 島根半島周辺の海はサンゴ礁の北限域とされ、ダイバーにとって貴重な透明度、海洋資源が存在するエリア。
- 平成29年12月に「島根半島・宍道湖・中海ジオパーク」に認定され、ビクターセンターが整備される予定。

**法吉地区**

- 松江城から3km圏内にあり、関係者に戸建ての住宅が建ち並ぶエリア。
- 昭和40年代以降、団地造成に伴い人口が増加。高齢化が進行中。

**松江駅前地区**

- 本市の玄関口エリアであるが、市内観光の通過点となっている
- 市街地を二分する大橋川では洪水被害軽減のため改修事業に着手。
- 大橋川改修事業の推進とともに水辺空間の整備を推進する計画あり

**乃木地区**

- 旧ホテル宍道湖は高速道路ICに近く松江の玄関口であり宍道湖東岸からの素晴らしいロケーションが広がる。
- 同施設は耐震補強工事費用が捻出できず2016年12月に閉館。

国土地理院ウェブサイトをもとに申請者が作成

## 【2】地域の課題

### 課題①； 観光需要の高まりによる環境への負荷

松江城天守の国宝指定、中国横断自動車道尾道松江線の全線開通等の影響を受け、近年、松江市内の**観光入込客数は増加傾向**にあり、市街地では**マイカー来訪者も増え**ている。

松江城大手前駐車場周辺では、城下町特有の見通しの悪い道路や細街路、わかりにくい駐車場などの要因により、観光シーズンを中心に駐車場の空き待ちの車列や駐車場を探す車両、さらには**日常生活・業務車両も加わり、常に渋滞が発生**している。（\*城山大手前線の今年夏の全線供用開始で改善が見込まれている）

交通混雑は騒音問題やCO<sub>2</sub>排出量の増加など沿道環境の悪化を招くほか、交通事故等のリスクを高めることにも繋がり、市街地における**渋滞緩和及び通行車両の減少は喫緊の課題**といえる。



### 課題②； ユニバーサル観光を推進する 受入れ態勢の遅れ

観光需要が高まる中、**誰もが安心して旅を楽しむことのできるユニバーサルツーリズムの環境整備**は未だ途上であり、必ずしも十分とはいえない。

2020年の東京オリンピック・パラリンピックを目前に、松江市が国際文化観光都市として世界から選ばれる観光地となるためには、行政や事業者・NPO等幅広い関係者の協力のもと、地域のユニバーサル**観光受け入れの機運、体制を強化**し、旅行商品となりうるユニバーサル視点でのコンテンツ開発や高齢者や身体障がい者などの**自動車移動の制約を受ける人たちも、家族や友人など誰もと一緒**に**楽しめる観光環境づくり**が求められる。

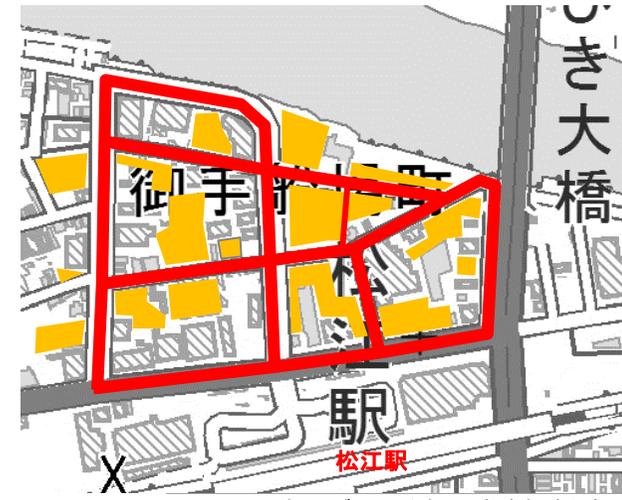


### 課題③； 中心市街地に増える低未利用地

松江市の中心市街地内には“松江らしさ”が凝縮した観光拠点が多数あり、多くの観光客が訪れている。しかし一方で、人口減少や高齢化により空き家や空き店舗も目立つようになってきている。

特に松江駅前では、狭小なスペースを活用し、平面駐車場などの低未利用地が多く、これらは、**街の魅力や求心力を低下**させるとともに、**市街地内の交通混雑を誘引**する原因の一つにもなっている。

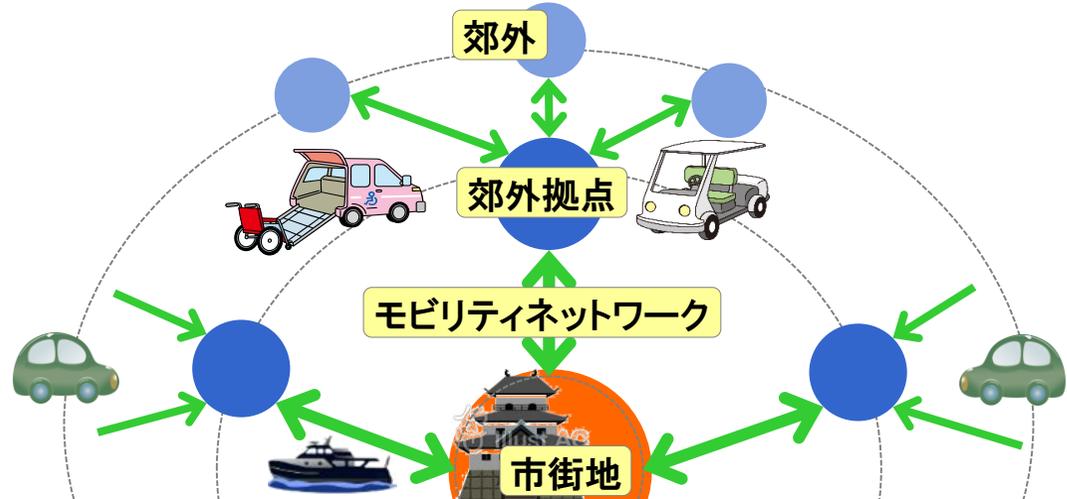
▼松江駅前の駐車場位置



国土地理院ウェブサイトをもとに申請者が作成

### 【3】 構想の全体像

本市では、観光客の増加が加速する中、市街地では交通混雑の常態化や、人口減少に伴う空き家・空き地の増加が問題となっている。  
 これを背景に、“エコ(創蓄省エネ, 低炭素)”及び“ユニバーサル”の視点から、観光行動の低炭素化と、誰もが思い思いに楽しめるおもてなしの観光地づくりを推進し、「国際文化観光都市・松江」の品格を高めていくための“道しるべ”として本構想を策定した。



**LP1 ; 「歩きたくなる」市街地賑わい拠点の整備**

→ まち歩き観光を促進し、市街地内でのマイカー利用を抑制。

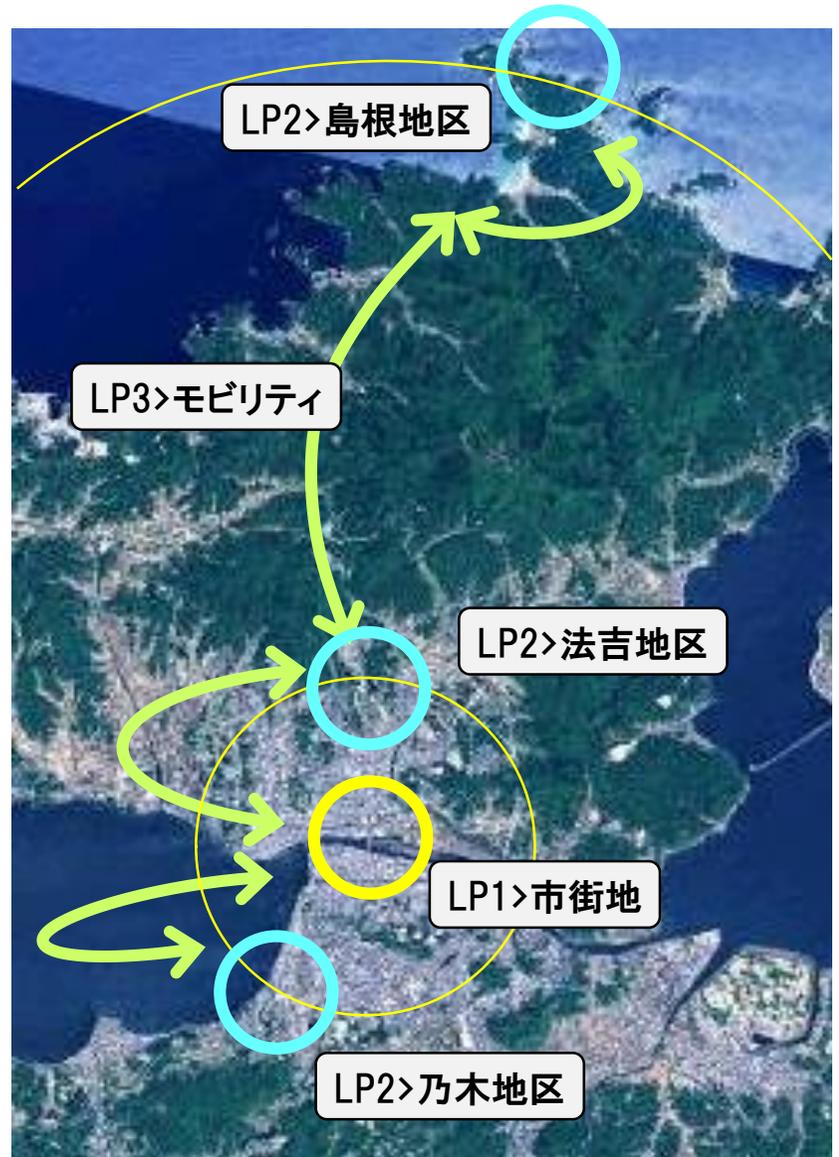
**LP2 ; 「行きたくなる」郊外交通結節拠点の整備**

→ 郊外に賑わい施設を兼ねたパーク&ライド拠点を整備し、市街地へのマイカー進入を抑制。

**LP3 ; 「乗りたくなる」モビリティネットワークの構築**

→ 市街地と郊外拠点を結ぶエコでユニバーサルなモビリティを導入。

## エコ×ユニバーサルな国際文化観光都市・松江の次世代型まちづくり構想の実現



国土地理院ウェブサイトをもとに申請者が作成

# 【2 構想イメージ】

## 【2.2 構想の実現に向けたリーディングプロジェクト】

### LP1) 「歩きたくなる」市街地賑わい拠点の整備

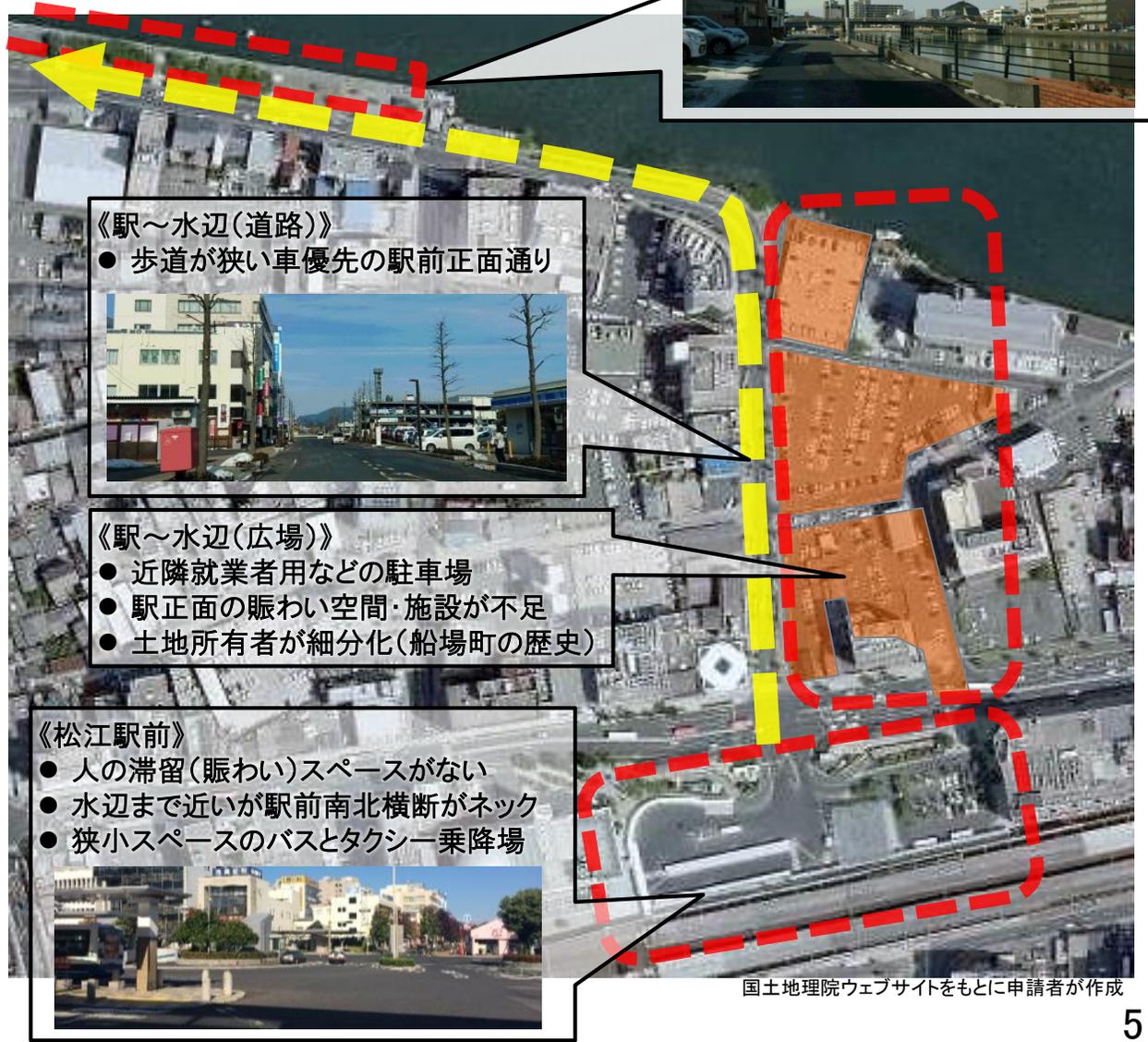
#### 松江駅前地区

- 本市の玄関口といえるエリアであるが、南北を分断するように県道が走り、駅側は狭小なスペースにバスやタクシーの乗降場、観光案内所等が集約され、反対側は民間の平面駐車場が広がっている。
- 交通量が多いことから低炭素型のまちづくりを推進するような「歩きたくなる」空間にはなっておらず、駅前機能の面的な再整備(構想検討中)にあわせて歩きやすい観光動線の確保が必要。

#### ▼ 松江市が推奨する歩く観光ルート



国土地理院ウェブサイトをもとに申請者が作成



《水辺》

- 親水スペースがない
- ユニバーサル化されていない

《駅～水辺(道路)》

- 歩道が狭い車優先の駅前正面通り

《駅～水辺(広場)》

- 近隣就業者用などの駐車場
- 駅正面の賑わい空間・施設が不足
- 土地所有者が細分化(船場町の歴史)

《松江駅前》

- 人の滞留(賑わい)スペースがない
- 水辺まで近いが駅前南北横断がネック
- 狭小スペースのバスとタクシー乗降場

国土地理院ウェブサイトをもとに申請者が作成

# 【2 構想イメージ】

## 【2.2 構想の実現に向けたリーディングプロジェクト】

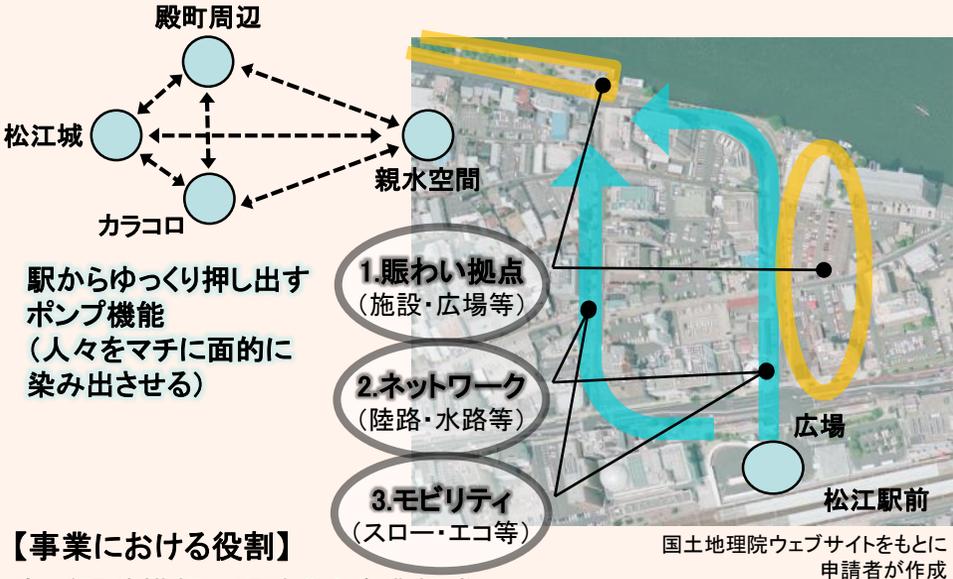
### LP1) 「歩きたくなる」市街地賑わい拠点の整備

#### 松江駅前地区

##### LP1-①；歩きたくなる駅前エリアの整備

###### 【取り組みの方向性】

- 面的な駅前再整備と一体的に水都松江のウェルカムルートとなる松江駅から大橋川の水辺までの観光ルートを形成
- ユニバーサルな駅前公共空間の確保
- 宿泊機能・商業機能を含む複合型賑わい施設の整備



駅からゆっくり押し出すポンプ機能  
(人々をマチに面的に染み出させる)

###### 【事業における役割】

- 官／駅前構想の明確化と事業推進
- 民間事業との連携による賑わい拠点の整備
- 民／構想に基づく民有地の再開発
- 賑わいを生み出す拠点・施設の整備

国土地理院ウェブサイトをもとに申請者が作成

##### LP1-②；ユニバーサルな観光動線の確保

###### 【取り組みの方向性】

- 駅前から松江城までの景観や歴史が満喫できる歩きやすい観光動線を確保。エコでスローなモビリティを増やし、きれいな空気と静かで安全な環境をつくりだし、まち歩き観光を促進。
- 道路の拡幅・歩道の整備やICT化推進(ニーズに応じた情報提供やICカード導入等)によりユニバーサル化を支援
- 大橋川拡幅工事に合わせた親水歩道や滞留空間整備
- 陸路(徒歩・シェアサイクル・パーソナルモビリティ、バス等)と水路(はくちょう号等)から楽しめる交通結節点(船着場・バス停・サイクルポート等)の整備

###### 【事業における役割】

- 官／駅前構想の明確化と事業推進
- インフラのバリアフリー化や交通システムを推進
- 民／構想に基づく施設整備や移動サービスの提供

##### LP1-③；施設屋根等を活用した分散型エネルギーの導入

###### 【取り組みの方向性】

- 駅前再生エリアの既存及び新設の施設には、太陽光発電やコージェネシステム等の環境負荷の少ない分散型エネルギーを導入し、まちな環境性を高めるとともに、耐災害性も強化する

###### 【事業における役割】

- 官／分散型エネルギー導入の普及支援・啓発
- 民／整備・所有施設への積極的分散型エネルギーの導入

# 【2 構想イメージ】

## 【2.2 構想の実現に向けたリーディングプロジェクト】

### LP2) 「行きたくなる」郊外交通結節拠点の整備

### LP3) 「乗りたいくなる」モビリティネットワークの構築

#### 法吉地区

- 中心市街地から3km圏内にあり、戸建て住宅が建ち並ぶエリアである。団地中央にはスーパーやATM、高齢者施設、保育施設等の生活利便施設が立地している。
- さらに、地域内外から人を呼び込むような福祉交流施設を整備する計画がある。同施設へユニバーサルツアーデスク機能を付加し、日本海側の島根地区や市街地と当該地区を結ぶ新たな交通ネットワークを構築し、自動車交通量を抑制する交通結節拠点の創出が期待される。

#### 《団地中央》

- 日用雑貨や生鮮食料品、喫茶等の各店舗、ATMのほか、福祉施設や保育施設が集積
- 民間による小さな拠点づくりが進行



#### 《団地内部》

- 高齢化が進行
- 住民が協力しあいバス路線を維持

国土地理院ウェブサイトをもとに申請者が作成

#### LP2-①；小さな拠点づくりの推進

##### 【取り組みの方向性】

- 住民や観光客が容易に集える新たなコミュニティ施設の整備と小さな暮らしのスマート化
- ユニバーサル観光のツアーデスクや観光移動の休憩・中継拠点の整備  
(※障がい者や高齢者の観光移動中のトイレ休憩や観光広域モビリティの乗継に資する拠点)

##### 【事業における役割】

官／民間による小さな拠点づくり事業の積極的支援  
 民／住民や観光客も集えやすい新たな施設・拠点の整備  
 ユニバーサル観光を推進する新規事業の創出

#### LP3-①；次世代モビリティの導入

##### 【取り組みの方向性】

- 団地内の移動を支援する電動小型低速モビリティ導入
- 日常生活以外の観光利用などの新たな活用
- 団地周辺モビリティの自動走行化

##### 【事業における役割】

官／次世代モビリティ導入に向けた各種支援(ハード、ソフト)  
 民／事業スキームの具体化と社会実装



▲熊本県芦北町の道の駅 自動運転実証実験の車両

#### LP3-②；福祉車両を活用したバリアフリー観光の交通整備

##### 【取り組みの方向性】

- 交通弱者の観光広域移動を支援する既存福祉車両の活用  
(※中心部等からジオパーク等を含めた広域移動を支援するため、民間事業者が連携した福祉車両によるバリアフリー観光移動のネットワーク化)

##### 【事業における役割】

官／事業実現に向けた積極的支援  
 民／民間連携による観光支援サービスの仕組みづくりと事業化



▲福祉車両(昇降シート車)

# 【2 構想イメージ】

## 【2.2 構想の実現に向けたリーディングプロジェクト】

### LP2) 「行きたくなる」郊外交通結節拠点の整備

### LP3) 「乗りたいくなる」モビリティネットワークの構築

#### 乃木地区

- 当該地区は宍道湖沿いを走る国道9号線に隣接し、市街地より3km、山陰道の松江西ICより1.5kmという好立地に位置し、当市の玄関口ともいえるエリアである。
- 当該地区中央には、耐震基準が満足せず遊休化したホテル宍道湖跡地(県所有)があり、当施設のリノベーションによって市街地への車両進入を抑制するような交通結節拠点の創出が期待される。なお、施設の改修にあたって創エネを導入し、EVモビリティの動力源とする。



《湖岸》

- 約1km続く宍道湖畔の緑道等から夕日スポットや美術館等にアクセスしやすい

《ホテル宍道湖跡地》

- 宍道湖沿いの景観の良い場所
- 建物・庭園・駐車場が現存
- 土地・施設ともに島根県が所有

国土地理院ウェブサイトをもとに申請者が作成

#### LP2-②； 公的遊休不動産活用による新たな拠点づくり

##### 【取り組みの方向性】

- ユニバーサル観光対応型の宿泊・福祉・商業等を含む複合型賑わい拠点の整備
- 広大な敷地を活用したPV駐車場整備による平常時の再エネ利用(災害時には避難拠点として活用)

##### 【事業における役割】

官／公的不動産の民活利用支援  
 民／公的不動産を活用した新たな拠点の整備  
 (ハード・ソフトの両面より)



▲防災拠点機能を備えた屋外駐車場の例道の駅どまんなかたぬま(栃木県田沼市)  
 出典：道の駅どまんなかたぬま公式ホームページ

#### LP3-①；次世代モビリティの導入

##### 【取り組みの方向性】

- 誰でも宍道湖景観や夕景を楽しめる電動小型低速モビリティ(パーソナルモビリティ等)の導入
- 湖畔周辺観光モビリティの自動走行化

##### 【事業における役割】

官／次世代モビリティ導入に向けた各種支援(ハード、ソフト)  
 民／事業スキームの具体化と社会実装



▲電動小型モビリティの例プリンスグランドリゾート軽井沢

#### LP3-③；水都松江を代表するエコシップの開発・導入

##### 【取り組みの方向性】

- デザイン性&利便性の高いバリアフリー対応型エコシップの開発
- 湖上遊覧や観光拠点のネットワーク化

##### 【事業における役割】

官／民間による技術開発支援  
 民／エコシップの開発及び活用した観光支援サービスの事業化

# 【2 構想イメージ】

## 【2.2 構想の実現に向けたリーディングプロジェクト】

### LP2) 「行きたくなる」郊外交通結節拠点の整備

### LP3) 「乗りたいくなる」モビリティネットワークの構築

#### 島根地区

- H29.12には世界ジオパークに認定されるとともに、国内でも珍しいバリアフリーダイビングの施設が新設予定である。今後、観光客増加が見込まれる中、優れた自然環境を活かすため排ガスの少ないエコなモビリティにより点在する観光スポットをつなぐ必要がある。
- また、障がいを持つ方でもマイカーに頼らず観光できるユニバーサル対応型の交通体系の構築を目指す。

#### LP2-③；バリアフリー観光拠点の整備

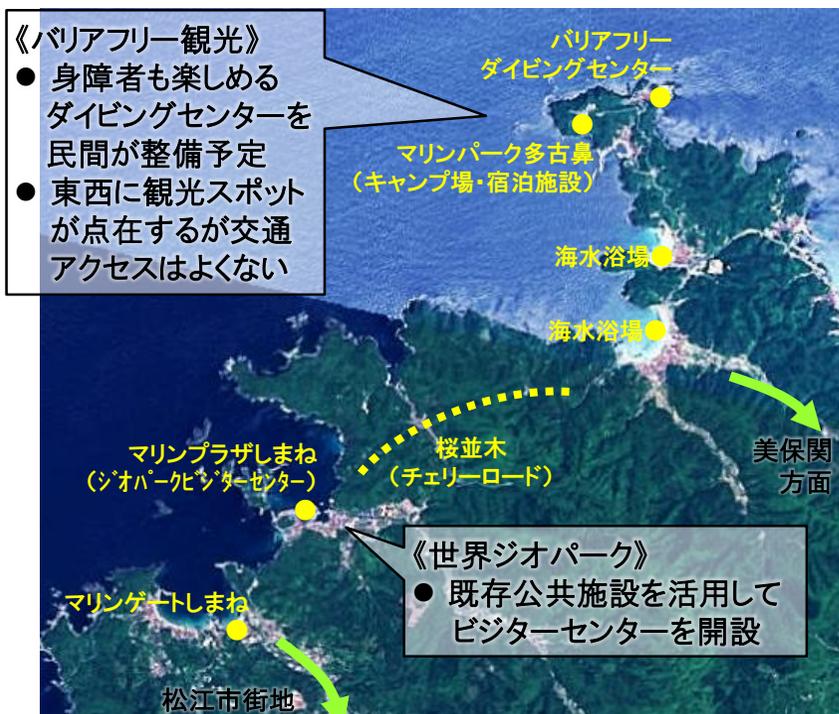
- 【取り組みの方向性】**
- 公的不動産を活用したバリアフリー型アクティビティ施設(バリアフリーダイビング施設等)整備
  - 公的不動産やインフラのバリアフリー化
- 【事業における役割】**
- 官／公的不動産やインフラのバリアフリー化  
ジオパークと組合せ、ユニバーサル観光拠点化の支援・推進
- 民／バリアフリー型アクティビティ施設の整備や新規サービスの事業化

#### LP3-①；次世代モビリティの導入

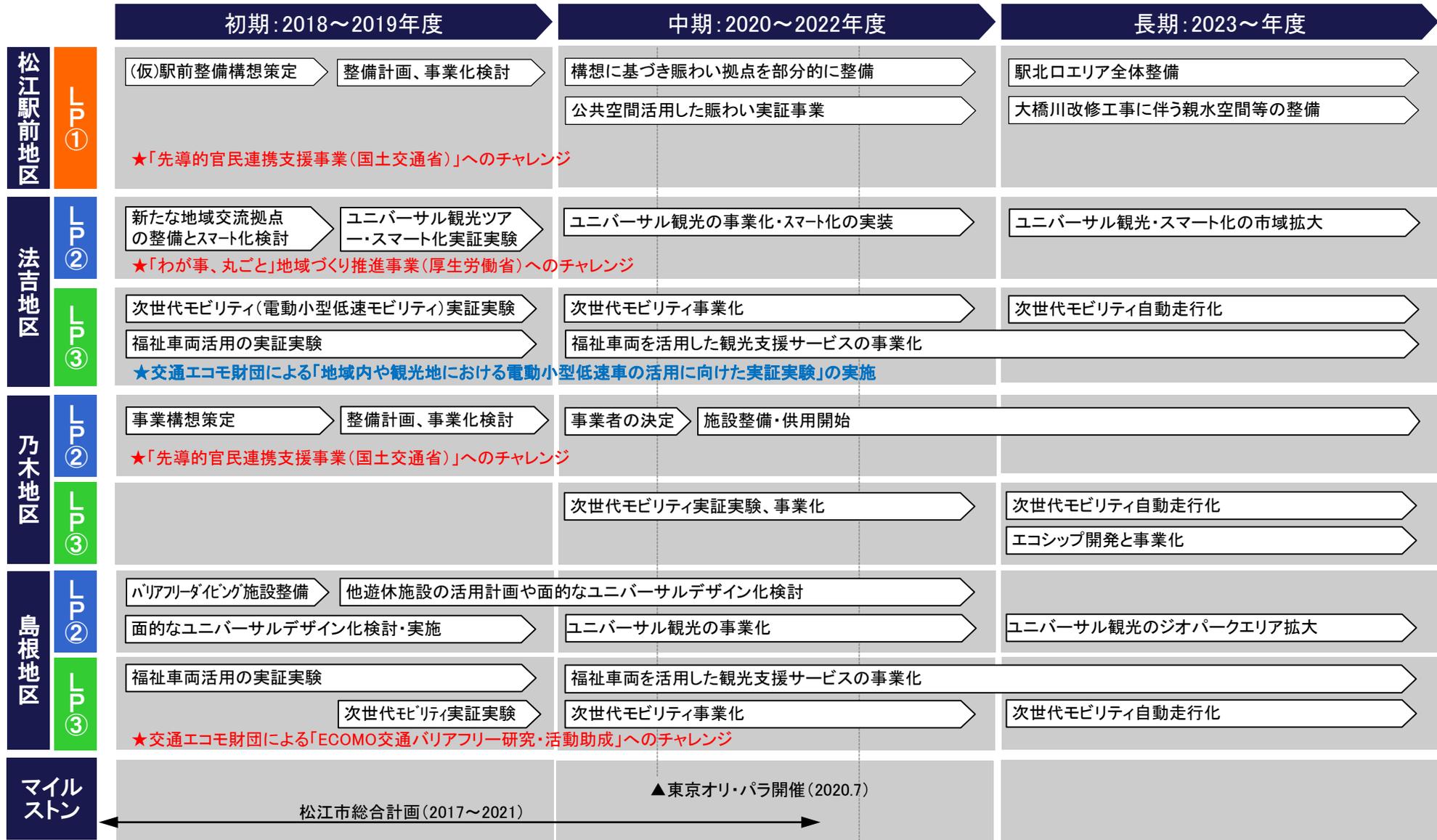
- 【取り組みの方向性】**
- 観光拠点からジオパークを回遊する電動小型低速モビリティの導入
  - ジオパーク内モビリティの自動走行化
- 【事業における役割】**
- 官／次世代モビリティ導入に向けた各種支援(ハード、ソフト)
- 民／事業スキームの具体化と社会実装

#### LP3-②；福祉車両を活用したバリアフリー観光交通の整備

- 【取り組みの方向性】**
- 高齢者や身障者の観光広域移動を支援する既存福祉車両の活用  
(※中心部等からジオパーク等を含めた広域移動を支援するため、民間事業者が連携した福祉車両によるバリアフリー観光移動のネットワーク化)
- 【事業における役割】**
- 官／事業実現に向けた積極的支援
- 民／民間連携による観光支援サービスの仕組みづくりと事業化



# 【5】 構想の実現に向けたロードマップ



# 【6】 構想の実現に向けた課題と方策

項目	課題	課題に対する対応方針、対応策
【構想全体】	枠組の構築	・新たな行政計画・施策への本構想内容の反映
	中長期的な取組展開の担保	・構想推進に向け官民のエコユニ会議を継続的に開催し検討を進める
【松江駅前地区】 LP1/「歩きたくなる」市街地賑わい拠点の整備	地権者との合意形成	・松江市による(仮)駅前整備構想策定(方向性の明確化) ・構想に基づき、地権者や関係機関との調整
	官民役割の明確化	・「先導的官民連携支援事業(国土交通省)」へのチャレンジ (事業の方向性及び官民連携策の明確化・FS調査)
【法吉地区】 LP2/「行きたくなる」市街地賑わい拠点の整備 LP3/「乗りたいくなる」モビリティネットワークの構築	モビリティの導入と実証実験の開始	・交通エコモ財団による「地域内や観光地における電動小型低速車の活用に向けた実証実験」の支援を受け実証実験を実施 ・「わが事、丸ごと」地域づくり推進事業(厚生労働省)へのチャレンジ
	ユニバーサル観光をサポートする人材の育成	・市内社会福祉法人や福祉系教育機関、観光協会等と連携し、人材を育成
【乃木地区】 LP2/「行きたくなる」市街地賑わい拠点の整備 LP3/「乗りたいくなる」モビリティネットワークの構築	公的遊休不動産の活用 民間事業者の選定	・事業の方向性(導入機能等)および事業手法の検討 ・「先導的官民連携支援事業(国土交通省)」へのチャレンジ ・民間提案制度やプロポーザル等による事業者の選定
	新たなエコモビリティの開発・導入	・電動小型低速モビリティについては、法吉団地での実証実験結果を基に事業化を検討 ・エコシップについては民間を中心に研究開発を推進
【島根地区】 LP2/「行きたくなる」市街地賑わい拠点の整備 LP3/「乗りたいくなる」モビリティネットワークの構築	公的不動産やインフラのバリアフリー化	・「バリアフリー法等に基づく一体的・総合的なバリアフリー化の推進」関連事業(国土交通省)を活用したバリアフリーの推進
	福祉車両のシェアリングシステムの開発	・交通エコモ財団による「ECOMO交通バリアフリー研究・活動助成」へのチャレンジ(法的制度の確認、車両所有者との調整・協議、シェアリングシステムの検討等)

『エコ×ユニバーサルな国際文化観光都市・松江の次世代型まちづくり』構想の実現へ

【参考】

【4】 構想の実現に向けたリーディングプロジェクト～各リーディングプロジェクトの概要①

松江駅前地区

【リーディングプロジェクト①】 「歩きたくなる」市街地賑わい拠点の整備

項目	内容
プロジェクトの内容 (構想全体における位置づけ含め)	市街地のマイカー利用削減のため、当該地区を「歩きたくなる」市街地の賑わい拠点として整備 <ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 賑わいを生み出す駅前エリアを整備する</li> <li>➢ ユニバーサルな交通施設を整備する</li> <li>➢ 駅前施設や交通施設等に分散型エネルギーを導入する(耐災害性にも寄与)</li> </ul>
実施予定時期	初期(～2019年度) ;行政による(仮)駅前整備構想策定、整備計画及び事業化検討 中期(2020～2022年度) ;構想に基づき賑わい拠点を部分的に整備、公共空間を活用した賑わい実証実験 長期(2022～年度) ;駅北口エリア全体整備、大橋川改修工事に伴う親水空間等の整備
想定実施箇所(場所)	松江駅北口エリア
想定実施主体(体制)	松江市、地権者、駅前整備事業に関係する民間事業者、福祉関連団体等
実現に向けての手順	①(仮)駅前整備構想を策定し本モデル構想を具体化、関係者間での合意形成を推進 ②構想に基づき第1期として既存の低未利用地(平面駐車場)等に賑わい施設を整備 加えて歩道等の既存インフラのユニバーサル化、新設施設を活用した屋根PVやソーロジェネレーション等を導入 ③新規施設の本格稼働等と呼び水に、他低未利用地や空地を利用し賑わい施設を整備 大橋川改修事業にあわせ、親水空間や陸水路交通結節点を整備
想定事業規模	事業エリア1ha程度の規模を想定(各種整備においては民間資金の活用も想定)
想定事業効果	<ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 本市の玄関口として相応しい賑わい空間の創出やまちなか回遊の促進</li> <li>➢ 駐車場待ちなど中心部の交通混雑の解消</li> <li>➢ 障がい者や高齢者、外国人も含めたユニバーサル観光が拡大</li> </ul>
実施に向けての課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 細分化された地権者との合意形成</li> <li>➢ 本市の玄関口としてふさわしい空間を創出するための官民役割の明確化</li> </ul>

【参考】

【4】 構想の実現に向けたリーディングプロジェクト～各リーディングプロジェクトの概要①

法吉地区

【リーディングプロジェクト②】「行きたくなる」郊外交通結節拠点の整備

【リーディングプロジェクト③】「乗りたいくなる」モビリティネットワークの構築

項目	内容	
プロジェクトの内容 (構想全体における位置づけ含め)	<p>生活、福祉機能が集まる市街地郊外の小さな拠点を松江市のユニバーサル観光の拠点としても位置づけ、住民や観光客が容易に集える新たなコミュニティ施設の整備</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 小さな拠点を核とする生活移動を支援する次世代モビリティの導入を図る</li> <li>➤ バリアフリー観光ツアーを支援する新たな拠点づくりを推進する</li> <li>➤ 福祉車両を活用したバリアフリー観光事業を開発する</li> </ul>	
実施予定時期	<p>初期(～2019年度) ; 新たな地域交流拠点の整備、電動小型低速モビリティ及び福祉車両活用の実証実験  中期(2020～2022年度) ; ユニバーサル観光の事業化、電動小型低速モビリティ及び福祉車両活用の事業化  長期(2022～年度) ; ユニバーサル観光の市域拡大、次世代モビリティ(電動小型低速含む)の自動走行化</p>	
想定実施箇所(場所)	法吉地区	
想定実施主体(体制)	松江市社会福祉協議会、社会福祉法人みずうみ、松江市社会福祉法人連絡会	
実現に向けての手順	<p>【リーディングプロジェクト②】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①交流ホールなど新たな施設を整備</li> <li>②ユニバーサル観光のツアーデスクを開所</li> <li>③lot活用等による小さな暮らしのスマート化を推進</li> </ul>	<p>【リーディングプロジェクト③】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①団地住民向けの電動小型低速モビリティの実証実験</li> <li>②本格運用、用途拡大(観光等)、他地域へ展開</li> <li>③次世代モビリティの自動走行化に向けた展開</li> </ul>
想定事業規模	2億円規模の地域施設整備、電動小型低速モビリティ複数台導入	
想定事業効果	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 低炭素型交通の普及</li> <li>➤ ユニバーサル観光をベースとする新たな観光サービス事業の創出</li> </ul>	
実施に向けての課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 次世代モビリティ導入に向けた各種調整</li> <li>➤ ユニバーサル観光をサポートする人材の育成</li> </ul>	

# 【参考】

## 【4】 構想の実現に向けたリーディングプロジェクト～各リーディングプロジェクトの概要①

### 乃木地区

#### 【リーディングプロジェクト②】「行きたくなる」郊外交通結節拠点の整備

#### 【リーディングプロジェクト③】「乗りたいくなる」モビリティネットワークの構築

項目	内容	
プロジェクトの内容 (構想全体における位置づけ含め)	既存の公的遊休不動産を活用し、新たな環境配慮型ユニバーサル観光拠点としてエリアを整備する > 公的遊休不動産を活用し宿泊・商業機能を有するユニバーサル対応型観光拠点を整備する > 次世代モビリティ導入により、主に交通弱者を対象とした新たな観光コンテンツづくりを推進する	
実施予定時期	初期(～2019年度) ; 公的遊休不動産を活用した事業構想・整備計画策定 中期(2020～2022年度) ; 構想に基づく施設整備・供用開始、次世代モビリティの実証実験 長期(2022～年度) ; 次世代モビリティの自動走行化、バリアフリー対応型エコシップ開発と事業化	
想定実施箇所(場所)	乃木地区	
想定実施主体(体制)	開発事業に参画する民間事業者、地権者(島根県)、福祉関連団体、松江市等	
実現に向けての手順	<b>【リーディングプロジェクト②】</b> ①官民連携により公的遊休不動産を活用した事業構想を具体化し、事業者選定。 ②構想に基づく新たな複合型施設と新規モビリティの電力源となる創エネ駐車場を整備。	<b>【リーディングプロジェクト③】</b> ①観光客向け次世代モビリティ導入実験、事業化 ②バリアフリー対応型エコシップ開発、サービス実験、事業化
想定事業規模	事業エリア2ha程度の規模を想定(各種整備においては民間資金の活用も想定)	
想定事業効果	> 低炭素型交通の普及 > ユニバーサル観光をベースとする新たな観光サービス事業の創出 > 分散型独立電源を有する一時避難拠点(創エネ駐車場)の確保	
実施に向けての課題	> 公的遊休不動産を整備、活用する事業者の選定 > 次世代モビリティ、エコシップの開発・導入	

【参考】

【4】 構想の実現に向けたリーディングプロジェクト～各リーディングプロジェクトの概要①

島根地区

【リーディングプロジェクト②】「行きたくなる」郊外交通結節拠点の整備

【リーディングプロジェクト③】「乗りたいくなる」モビリティネットワークの構築

項目	内容	
プロジェクトの内容 (構想全体における位置づけ含め)	世界ジオパークへの認定(H29.12)を機に、公的遊休不動産等を活用し、新たな環境配慮型バリアフリー観光エリアとして整備する ➤ 公的遊休不動産を活用し、国内でも数少ないバリアフリーダイビングスポットを整備する ➤ ジオパークを回遊する次世代モビリティを導入する ➤ 福祉車両を活用したバリアフリー観光事業を開発する	
実施予定時期	初期(～2019年度) 中長期(2020年度～)	;公的遊休不動産を活用したバリアフリーダイビングスポットの整備 福祉車両を活用したバリアフリー観光の実証実験、次世代モビリティの実証実験 ;他の公的不動産の活用計画や周辺既存インフラの面的なユニバーサルデザイン検討 ユニバーサル観光の拠点化、次世代モビリティの事業化
想定実施箇所(場所)	島根地区	
想定実施主体(体制)	民間事業者、福祉関連団体、松江市等	
実現に向けての手順	<b>【リーディングプロジェクト②】</b> ①バリアフリーダイビング施設の整備 バリアフリー観光スポットの面的整備 ②新たなバリアフリー観光コンテンツの開発	<b>【リーディングプロジェクト③】</b> ①既存法人が所有する福祉車両を活用した観光ツアーや送迎サービスの事業化 ②ジオパーク内を回遊する次世代モビリティの導入
想定事業規模	地区内の公的不動産のリノベーション、次世代モビリティ数台導入	
想定事業効果	➤ マイカーに頼らない観光交通の低炭素化 ➤ 新たなユニバーサル観光地の開発と、それに伴う交流人口の増加 ➤ 障がい者や高齢者、妊婦など交通弱者の観光支援・移動支援	
実施に向けての課題	➤ 既存インフラのバリアフリー化 ➤ 福祉車両のシェアリングシステムの開発	

# 【参考】

## 進み始めた取組①； 小さな生活拠点を核とした地域共助型モビリティ実証事業

公益財団法人交通エコロジー・モビリティ財団による「平成29年度 地域内や観光地における電動小型低速車の活用に向けた実証実験」に応募申請し、今年度12月に採択。次年度9月より約6ヶ月間の実証実験を実施予定。

### 【実施概要】

- 小さな拠点を核とする電動小型低速車を活用した高台団地の買物弱者に対する移動サービスや食料品等の宅配サービスとして、地域事業者や住民等による電動小型低速車の共助型のモビリティサービスの実現可能性について検証する。
- 本実験で得た知見をもとに、観光用ユニバーサルモビリティ(LP3-①)の可能性検討に繋げる予定。なお、実験期間中のイベントに合わせ、松江城内での試験走行についても現在検討中。

### 【実施体制】

